
手で洗濯するとすこし気持ちよくなる

野鶴善明

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

手で洗濯するとすこし気持ちよくなる

【Nコード】

N3989I

【作者名】

野鶴善明

【あらすじ】

たらいに洗濯物を放りこんで、汚れ物に洗濯せつけんをぬりたくりながら自分の手でごしごし洗うと、けっこういい気分転換になります。手間はかかるけど、体もほぐれるし、なにより気分がすっきりします。自分の体を動かして、自分の手を使ってなにかをするのって、だいじなことなんですな。

今住んでいる下宿には洗濯機がない。近所にコインランドリーもない。だから、ワイシャツ以外はだいたい自分の手でごしごし洗っている。中古屋へ行って安い洗濯機を買おうと思っっているうちに、手で洗濯するのが好きになってしまったからだ。

発展途上国を旅した時に感心したのは、どの国でも女性たちが手で上手に洗濯することだった。大きなたらいに山盛りにつんだ汚れ物をおつという間に片付けてしまう。じつに手際がいい。おまけに洗濯機で洗うよりもきれいに仕上げる。洗濯は洗濯機がするものだと思っっていた僕にとって、ちょっととした驚きだった。

でも考えてみれば、洗濯機が普及したのはここ数十年の話だから、人類はずっと手で洗濯してきた。彼女たちが上手なのも当たり前の話だ。むしろ、現代人は手で洗濯するという能力を失って退化した人間なんじゃないだろうか。いささかおおげさだけど、なんだかそんなふうになってしまった。

僕の仕事はデスクワークだから、体を動かすことがない。仕事に追われて同じ姿勢で固まったままパソコンにかじりついていたりするから、肩がバキバキにこる。体が重くて、妙にだるい。当然、知らず知らずのうちにストレスもたまる。

夜、下宿へ帰ってから、たらいに洗濯物を放りこんで、洗濯せつけんをこすりつけながらごしごし洗っていると、仕事で力チ力チになった体がほぐれる。手を動かしているあいだは、けっこう洗濯に専念しているもので、ほかににも考えないから、それもいいのかもれない。洗い終えるころにはどんよりとにごった気分がすつと気が晴れて、すこし気持ちよくなる。体がほっこりして、血のめぐりがよくなって、体に力がもどるようだ。

もちろん、面倒くさくなる時もある。残業と休日出勤が続いてへとへとになっていると、洗濯物を見ただけでうんざりすることもあ

る。そんな時は、寝ているあいだに小人が洗ってくれたらいいのに、なんてくだらないことを思ったりもするけど、一度洗濯し始めれば、また夢中になって洗ってしまう。それで体が心地よく疲れてくれて、ぐっすり眠れたりする。

普段の生活のなかで体を動かすことは、けっこうだいじなことなんだろう。洗濯機やらなにやら機械ができるまで、人間はこまめに体を動かして、自分の手を動かして暮らしてきたわけだから、人の体も心もそんなふうにできているのかもしれない。たしかに機械は便利だし、なにかと忙しいから家庭用電化製品なしで家事をぜんぶ片付けるのはむりだけど、文明の利器に頼りすぎるのも考え物だなあと思う。便利なようで、じつはかなりいびつな生活を送っているのだろう。

ほんのささやかなことだけど、体を動かしてごしごし洗濯しているうちに、失ってしまった大切ななにかを自分の手に取り戻せたらいいな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3989i/>

手で洗濯するとすこし気持ちよくなる

2010年10月17日02時40分発行